

## ♪ふじの山

一、あたまを雲の上に出し  
四方（しほう）の山を見おろして（みおろして）  
かみなりさまを下にきく  
ふじは日本一の山

二、青ぞら高くそびえたち  
からだに雪のきものきて  
かすみのすそをとおくひく  
ふじは日本一の山

## ♪故郷の廃家

一、幾年（いくとせ）ふるさと 来てみれば  
咲く花鳴く鳥 そよぐ風  
門辺（かどべ）の小川の ささやきも  
なれにし昔に 変わらねど  
あれたる我家（わがいえ）に 住む人絶えて  
なく

二、昔を語るか そよぐ風  
昔をうつすか 澄める水  
朝夕（あさゆう）かたみに 手をとりにて  
遊びし友人（ともびと） いまいずこ  
さびしき故郷や さびしき我家や

## ♪牧場の朝

一、ただ一面（いちめん）に立ちこめた  
牧場の朝の霧（きり）の海  
ポプラ並木（なみき）のうっすりと  
黒い底から勇ましく（いさましく）  
鐘が鳴る鳴るかんかんと

二、もう起出した（おきだした）小舎小舎（こやごや）の  
あたりに高い人の声

霧に包まれ（つつまれ）あちこちに  
動く羊の幾群（いくむれ）の  
鈴が鳴る鳴るりんりんと

三、今さし昇る（のぼる）日（ひ）の影に  
夢からさめた森や山  
あかい光に染められた（そめられた）  
遠い野末（のずえ）に牧童（ぼくどう）の  
笛が鳴る鳴るぴいぴいと

## ♪村の鍛冶屋

一、暫時（しばし）もやまずに 鎚（つち）  
うつ響（ひびき）  
飛び散る火の花 はしる湯玉（ゆだま）  
鞆（ふいご）の風さえ 息をもつがず  
仕事に精出す（せいだす） 村の鍛冶屋

二、あるじは名高き（なだかき） いっこく  
老爺（おやじ）  
早起早寝の 病（やまい）知らず  
鉄より堅しと（かたしと） ほこれる腕に  
勝りて（まさりて）堅きは 彼がこころ

三、刀（かたな）はうたねど 大鎌小鎌（お  
おがまこがま）  
馬鋤（まぐわ）に作鋤（さくぐわ） 鋤（す  
き）よ鉈（なた）よ  
平和のうち物 休まずうちて  
日毎（ひごと）に戦う 懶惰（らんだ）の敵  
（てき）と

四、かせぐにおいつく 貧乏（びんぼう）な  
くて  
名物（めいぶつ）鍛冶屋は 日々に繁昌（はん  
じょう）  
あたりに類なき（るいなき） 仕事のほまれ  
鎚（つち）うつ響きに まして高し（たかし）

## ♪どこかで春が

どこかで春が 生まれてる  
どこかで水が 流れ出す

どこかで雲雀（ひばり）が 啼いて（ないて）  
いる  
どこかで芽（め）の 出る 音がする

山の三月 東風（こち）吹いて  
どこかで春が 生まれてる

（最初からもう一度）

## ♪春が来た

一、春が来た 春が来た どこに来た  
山に来た 里に来た 野にも来た

二、花がさく 花がさく どこにさく  
山にさく 里にさく 野にもさく

三、鳥がなく 鳥がなく どこでなく  
山でなく 里でなく 野でもなく

（一番をもう一度）

## ♪春風

一、吹けそよそよ吹け 春風よ  
吹け春風吹け 柳の糸に  
吹けそよそよ吹け 春風よ  
吹け春風吹け 我等の凧（たこ）に  
吹けよ吹け 春風よ  
やよ 春風吹け そよそよ吹けよ

二、やよ 吹くなよ風 この庭に  
風吹くなよ 風 垣根の梅に  
やよ 吹くなよ風 この庭に

風吹くなよ 風 我等の羽根に  
吹くな 風 この庭に  
やよ 吹くなよ風 吹くなよ 風よ

## ♪鯉のぼり

一、萱（いらか）の波と雲の波  
重なる波の中空（なかぞら）を  
橘（たちばな）かおる朝風に  
高く泳ぐや鯉のぼり

二、開ける広きその口に  
舟をも呑まん（のまん）様（さま）見えて  
ゆたかに振う（ふるう）尾鰭（おひれ）には  
物に動ぜぬ（どうぜぬ）姿あり

三、百瀬（ももせ）の滝を登りなば  
たちまち竜（りゅう）になりぬべき  
わが身に似よや（によや）男子（おのこご）  
と  
空に躍るや（おどるや）鯉のぼり

## ♪蛍

一、蛍（ほたる）のやどは川ばた楊（やなぎ）  
楊おぼろに夕やみ寄せて  
川の高（めだか）が夢見る頃は  
ほ、ほ、ほたるが灯をともし

二、川風そよぐ、楊もそよぐ  
そよぐ楊に蛍がゆれて  
山の三日月隠れる頃は  
ほ、ほ、ほたるが飛んで出る

三、川原のおもは五月（さつき）の闇夜（やみ  
よ）  
かなたこなたに友よび集（つど）い  
むれて蛍の大まり小まり  
ほ、ほ、ほたるが飛んで行く

## ♪紅葉

一、秋の夕日に照る（てる）山紅葉  
濃いも薄いも（こいもうすいも）数ある（か  
ずある）中に  
松をいろどる楓（かえで）や蔦（つた）は  
山のふもとの裾模様（すそもよう）

二、溪（たに）の流（ながれ）に散り浮く（ち  
りうく）紅葉  
波にゆられて離れて寄って（はなれてよって）  
赤や黄色の色様々に（いろさまざまに）  
水の上にも織る（おる）錦（にしき）

## ♪雪

一、雪やこんこ 霰（あられ）やこんこ  
降っては降っては ずんずん積る（つもる）  
山も野原（のはら）も 綿帽子（わたぼうし）  
かぶり  
枯木（かれき）残らず 花が咲く

二、雪やこんこ 霰やこんこ  
降っても降っても まだ降りやまぬ  
犬は喜び 庭駆けまわり（かけまわり）  
猫は火燧（こたつ）で 丸くなる

（一番をもう一度）

## ♪七つの子

烏（からす） なぜ啼くの（なくの）  
烏は山に  
可愛い（かわいい）七つの  
子があるからよ

可愛い 可愛いと  
烏は啼くの

可愛い 可愛いと  
啼くんだよ

山の古巣（ふるす）に  
いって見て御覧（ごらん）  
丸い眼（め）をした  
いい子だよ

（最初からもう一度）

## ♪かもめの水兵さん

一、かもめの水兵さん ならんだ水兵さん  
白い帽子 白いシャツ 白い服  
波に チャップ チャップ  
浮かんでる

二、かもめの水兵さん かけあし水兵さん  
白い帽子 白いシャツ 白い服  
波を チャップ チャップ  
越えてゆく

三、かもめの水兵さん ずぶぬれ水兵さん  
白い帽子 白いシャツ 白い服  
波で チャップ チャップ  
お洗濯（おせんたく）

四、かもめの水兵さん なかよし水兵さん  
白い帽子 白いシャツ 白い服  
波に チャップ チャップ  
揺れている（ゆれている）

## ♪蛙の夜まわり

一、蛙（かわず）の夜まわり  
ガッコ ガッコ ゲッコ ピョン ピョン  
ラッパ吹け ラッパ吹け  
ガッコ ゲッコ ピョン  
それ吹け もっと吹け

ガッコ ゲッコ ピオン  
ガッコ ゲッコ ガ ハ  
ピオンコ ピオンコ ピオン  
ガッコ ゲッコ ゲ ハ  
ピオンコ ピオンコ ピオン  
ガッコ ピオン ゲッコ ピオン  
ガッコ ゲッコ ピオン

二、寝坊(ねぼう)の蛙も  
ガッコ ガッコ ゲッコ ピオン ピオン  
あわてて 飛び起き  
ガッコ ゲッコ ピオン  
ラッパ吹く ラッパ吹く  
ガッコ ゲッコ ピオン  
ガッコ ゲッコ ガ ハ  
ピオンコ ピオンコ ピオン  
ガッコ ゲッコ ゲ ハ  
ピオンコ ピオンコ ピオン  
ガッコ ピオン ゲッコ ピオン  
ガッコ ゲッコ ピオン

三、朝まで夜通し(よどおし)  
ガッコ ガッコ ゲッコ ピオン ピオン  
寝ないで 夜まわり  
ガッコ ゲッコ ピオン  
それ吹け もっと吹け  
ガッコ ゲッコ ピオン  
ガッコ ゲッコ ガ ハ  
ピオンコ ピオンコ ピオン  
ガッコ ゲッコ ゲ ハ  
ピオンコ ピオンコ ピオン  
ガッコ ピオン ゲッコ ピオン  
ガッコ ゲッコ ピオン

### ♪雨降りお月さん

雨降りお月さん 雲のかけ  
お嫁にゆくときゃ 誰とゆく  
一人でからかさ さしてゆく

からかさないときゃ 誰とゆく  
シャラシャラ シャンシャン 鈴つけた  
お馬にゆられて ぬれてゆく  
(繰り返します)

### ♪とんび

一、とべ とべ とんび 空高く  
なけ なけ とんび 青空に  
ピンヨロー ピンヨロー  
ピンヨロー ピンヨロー  
たのしげに 輪をかいて

二、とぶ とぶ とんび 空高く  
なく なく とんび 青空に  
ピンヨロー ピンヨロー  
ピンヨロー ピンヨロー  
たのしげに 輪をかいて

### ♪七里ヶ浜の哀歌(真白き富士の嶺)

一、真白き富士の根 緑の江の島  
仰ぎ見るも 今は涙  
帰らぬ十二の 雄々しきみたまに  
捧げまつる 胸と心

二、ボートは沈みぬ 千尋(ちひろ)の海原  
風も浪も 小さき腕に  
力もつきはて 呼ぶ名は父母  
恨みは深し 七里が浜辺

三、み雪は咽びぬ(むせびぬ) 風さえ騒ぎ  
て  
月も星も 影をひそめ  
みたまよ何処に(いずこに) 迷いておわす  
か  
帰れ早く 母の胸に

四、みそらにかがやく 朝日のみ光

やみにしずむ 親の心  
黄金も宝も 何しに集めん  
神よ早く 我も召せよ

五、雲間に昇りし 昨日の月影  
今は見えぬ 人の姿  
悲しさ余りて 寝られぬ枕に  
響く波の おとも高し

六、帰らぬ浪路（なみじ）に 友呼ぶ千鳥に  
我もこいし 失せし人よ  
尽きせぬ恨みに 泣くねは共々  
今日もあすも 斯くてとわに

## ♪朝

朝は再びここにあり  
朝は我等と共にあり  
うもれよ眠り行けよ夢  
隠れよさらば小夜嵐

諸刃打ち振る鶏（くだかけ）は  
咽喉（のんど）の笛を吹き鳴らし  
今日の命の闘いの  
装いせよと叫ぶかな

野に出でよ野に出でよ  
稲の穂は黄に実りたり  
草鞋（わらじ）とく結え鎌も執れ  
風にいなく馬もやれ